

(トップページ: <http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/>)

(MENAランキングシリーズ: <http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/MENAranking.html>)

マイライブラリー:0340

(注)本稿は 2015 年 4 月 16 日から 21 日まで 3 回にわたり「アラビア半島定点観測」に掲載したレポートをまとめたものです。

2015.4.26
前田 高行

MENA(中東・北アフリカ)諸国の人口・出生率・平均寿命(世界人口白書2014年版)

(MENA なんでもランキング・シリーズ その2)

目次	頁
1. MENA 各国の人口	2
2. 若年層の比率	2
3. MENA 各国の人口増加率	3
4. MENA 各国の合計特殊出生率	4
5. 主要国の平均寿命	5

中東北アフリカ諸国は英語の Middle East & North Africa の頭文字をとって MENA と呼ばれています。MENA 各国をいろいろなデータで比較しようと言うのがこの「MENA なんでもランキング・シリーズ」です。「MENA」は日頃なじみの薄い言葉ですが、国ごとの比較を通してその実態を理解していただければ幸いです。なお MENA の対象国は文献によって多少異なりますが、本シリーズでは下記の 19 の国と 1 機関(パレスチナ)を取り扱います。(アルファベット順)

アルジェリア、バハレーン、エジプト、イラン、イラク、イスラエル、ヨルダン、クウェイト、レバノン、リビア、モロッコ、オマーン、パレスチナ自治政府、カタール、サウジアラビア、シリア、チュニジア、トルコ、UAE(アラブ首長国連邦)、イエメン、

これら 19 カ国・1 機関をおおまかに分類すると、宗教的にはイスラエル(ユダヤ教)を除き、他は全てイスラム国家であり OIC(イスラム諸国会議機構)加盟国です。なおその中でイラン、イラクはシーア派が政権政党ですが、その他の多くはスンニ派の政権国家です。また民族的にはイスラエル(ユダヤ人)、イラン(ペルシャ人)、トルコ(トルコ人)以外の国々はアラブ人の国家であり、それらの国々はアラブ連盟(Arab League)に加盟しています。つまり MENA はイスラム教スンニ派でアラブ民族の国家が多数を占める国家群と言えます。

第2回のランキングは国連人口基金(UNFPA)発行の「世界人口白書2014」のデータにより MENA

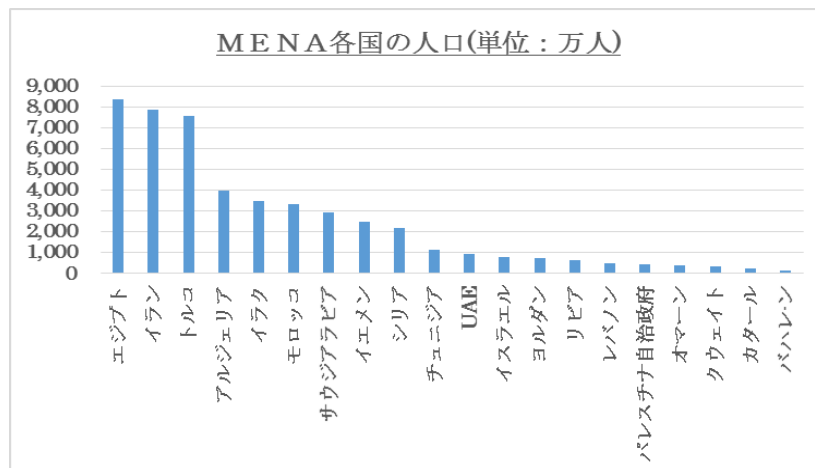
各国の人口・出生率・平均寿命等について比較しました。

(参考)国連人口基金東京事務所ホームページ「世界人口白書」:

<http://www.unfpa.or.jp/publications/index.php?eid=00037>

(突出した人口大国:エジプト、イラン、トルコ!)

1. MENA 各国の人口 (末尾表 2-T01 参照)



MENA 諸国の中で最も人口が多いのはエジプトの 8,340 万人である。これに次ぐのがイランの 7,850 万人、トルコの 7,580 万人であり、MENA ではこれら 3 カ国の人口が突出している。第 4 位はアルジェリアであり同国の人口は 3,990 万人である。この他人口が 3 千万人台の国はイラク(3,480 万

人)及びモロッコ(3,350 万人)である。これら 6 カ国に続くのがサウジアラビア(2,940 万人)、イエメン(2,500 万人)、シリア(2,200 万人)、チュニジア(1,110 万人)であり、以上 10 カ国が人口 1 千万人以上の国である。

MENA 第 11 位の国は UAE であり、同国の人口は 940 万人とされている。但しこれは外国人労働者を含んだ数値である。UAE は正確な外国人の人数を公表していないが、同国の人口の 8 割近くは外国人で占められ、その多くはインド、パキスタン、東南アジア諸国からの出稼ぎ労働者である。このことはクウェイト、カタールなど同じ湾岸産油国についても言えることである。

12 位以下の国とその人口は次のとおりである。

イスラエル(780 万人)、ヨルダン(750 万人)、リビア(630 万人)、レバノン(500 万人)、パレスチナ自治政府(440 万人)、オマーン(390 万人)、クウェイト(350 万人)、カタール(230 万人)、バハレーン(130 万人)。

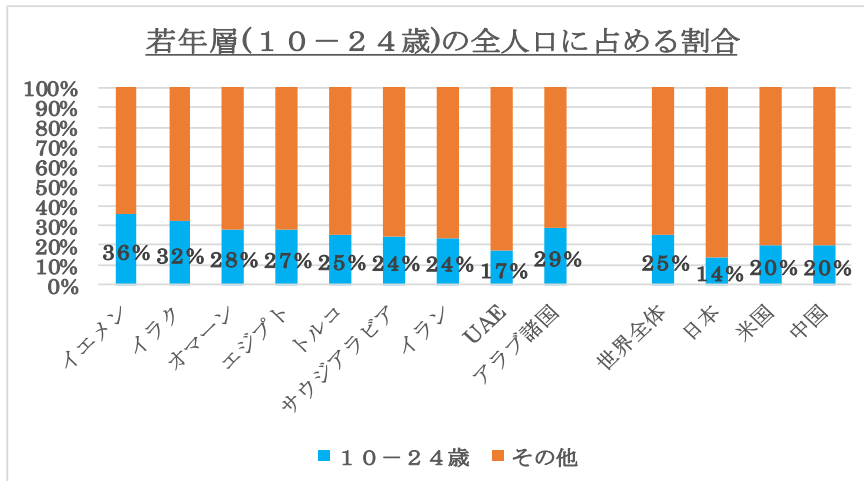
カタールは UAE と同様外国人が人口の 8 割以上を占めており本来の自国民は 30 万人程度と言われ実質的には MENA で最も人口が少ない国である。

(MENA では3人乃至4人に1人が若年層、日本ではわずか7人に1人!)

2. 若年層の比率

MENA 諸国は一般に若者が多い。年齢10-24歳の若年層が全人口に占める割合は MENA 平均で 26%であり、4 人に一人が若年層である。国別にみるとイエメンは 36%、イラクは 32%であり、3 人に 1 人が若年層である。その他オマーン(28%)、エジプト(27%)、トルコ(25%)、サウジアラビア、イラン(各

24%)などは4人に1人の割合である。これに対して米国および中国の若年層の比率は20%であり、MENA 諸国に比べて低い。さらに日本の場合はその比率は14%にとどまっており、若年層は全人口の7人に1人と非常に少ない。



なお同じ GCC 産油国の中でも若年層の比率はサウジアラビアの24%に対して、カタールは18%である。これはカタールの人口の8割前後が成人の外国人労働者であるため、若年層の見かけ上の比率が低くなっているためと考えられる。UAE の若年層

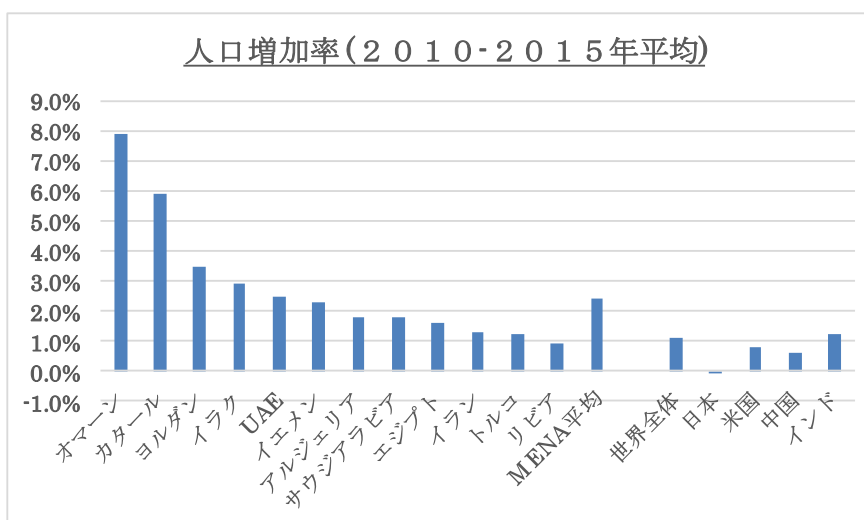
比率が21%と相対的に低いのも同様の理由である。

MENA に若年層が多いことは豊富な労働力の予備軍があるというプラスの側面がある一方、若者の失業問題を抱えることになり、また無職の若者あるいは社会の不平等を実感する若者たちがイスラム過激主義などの過激な思想に影響されやすいというマイナスの側面もある。数年前の「アラブの春」で現実のものとなったことは記憶に新しい。

若者達の健全な育成をめざし彼らに適正な仕事を与えることが MENA 地域の安定につながる重要な鍵であると言えよう。

(人口増加率が最も高いイエメン！)

3. MENA 各国の人口増加率



MENA 諸国の中で人口増加率が最も高いのはオマーンの7.9%であり飛び抜けている。これに次ぐのがカタールの5.9%であり、以下クウェイト(3.6%)、ヨルダン(3.5%)、レバノン(3.0%)と続いている。その他人口増加率が2%を超えているのはイラク、UAE、パレスチナ、イエメンな

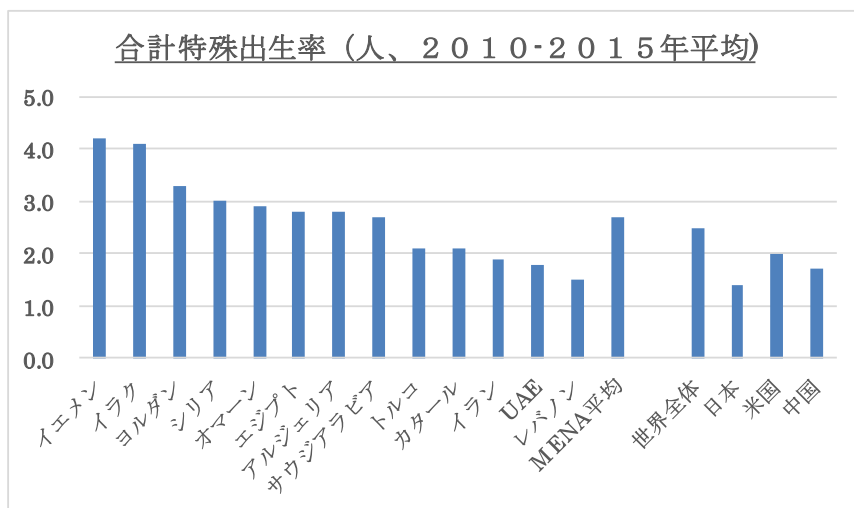
どである。

これら9か国の中にカタール、クウェイト、UAEのGCC産油国が入っている。しかし次項の合計特殊出生率でみるとおりこれら3か国の合計特殊出生率はいずれもMENA平均を下回っている。このことからこれら3か国における人口の増加は自然増加に加え外国人労働者の流入増という社会的増加が原因であることがわかる。湾岸産油国では過去数年の石油価格高騰によるオイルブームの結果、インフラ建設のための出稼ぎ労働者が急増しているのである。

全世界平均の人口増加率は1.1%であり、MENAではこれを大きく上回る国が多い。それに比べ中国の増加率は0.6%、米国のそれは0.8%と低く、日本はマイナス0.1%と人口が減少しつつありMENA諸国とは対照的である。

(アラブ人は子沢山！)

4. MENA各国の合計特殊出生率



合計特殊出生率とは人口統計上の指標で、女性が出産可能な年齢を15歳から49歳までと規定し、それぞれの出生率を出し、足し合わせることで、人口構成の偏りを排除し、一人の女性が一生に産む子供の平均数を求めたものである。

MENA諸国の中で合計特殊出生率が最も高いのはイエメンの4.2人、イラクおよびパレスチナの4.1人であり、出生率が4人以上のこれら3か国は他のMENA各国に比べても際立って高く、世界平均2.5人の2倍弱である。因みに日本は1.4人であり、一人っ子政策が浸透している中国では1.7人といずれも2人を下回っている。

アラブ諸国の平均は3.3人である。一般にアラブ諸国の出生率は高く子沢山の家庭が少なくないことを示している。上記3か国のほか出生率が世界平均を上回っているのは、ヨルダン(3.3人)、シリア(3.0人)、オマーン、イスラエル(2.9人)、エジプト、アルジェリア、モロッコ(各2.8人)、サウジアラビア(2.7人)、クウェイト(2.6人)である。

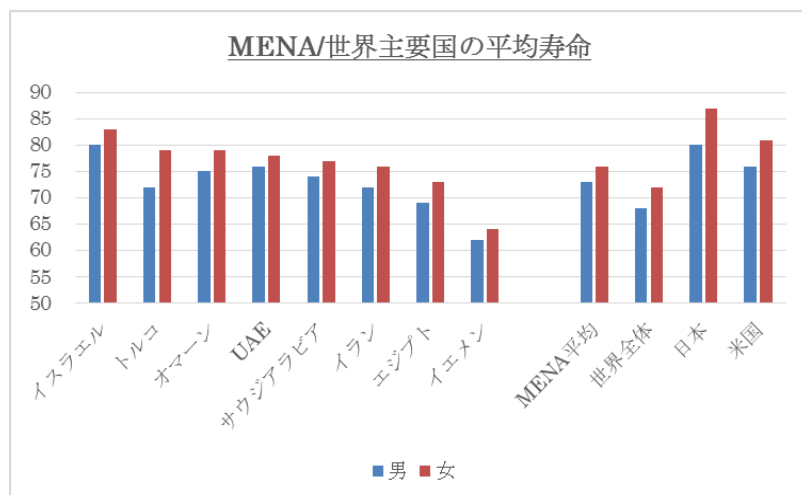
サウジアラビア、クウェイトと同じGCC加盟国のカタール、UAEはそれぞれ2.1人、1.8人であり世界平均よりも低く、米国あるいは中国並みである。前項で述べた通りカタールの人口増加率はMENAの中でオマーンに次いで二番目に高い(年率5.9%)。このことからカタールの人口増加は外国

人労働力の流入による社会増であることがわかる。

一般に先進国は合計特殊出生率が低いとされる中で MENA の先進国であるイスラエルは 2.9 人と比較的高い。これは同国ではアラブ系の出生率が高いことに加え、宗教的な理由で超正統派ユダヤ人(通称ハレディム)の出生率が高いためと考えられる。

(アラブ諸国の平均寿命は男 69 歳、女 73 歳！)

5. 主要国の平均寿命



MENA で平均寿命が男女とも最も高い国はイスラエルであり、男性 80 歳、女性 83 歳であり、MENA で男性の平均寿命が 80 歳を超えるのは同国だけである。日本の平均寿命(男性 80 歳、女性 87 歳)と比較すると、イスラエルは男性が同じであるが、女性は 4 歳短い。

この他 MENA の主な国については、UAE が男性 76 歳、女性 78 歳である。UAE は人口の 8 割近くをインドなどからの外国人労働者が占めているが、平均寿命はこれら一時居住の外国人を対象とはしていないと推測される。地域の人口大国であるトルコ、エジプト及びイランの平均寿命はトルコが男性 72 歳、女性 79 歳、エジプトは男性 69 歳、女性 73 歳、イランは男性 72 歳、女性 76 歳と、トルコが最も長寿であり、エジプトは他の 2 か国よりもかなり平均寿命が短い。

アラブ諸国の平均寿命は男性 67 歳、女性 71 歳であり世界平均(男 68 歳、女 72 歳)より少し短い。MENA 諸国で平均寿命が最も低いのはイエメンで同国の男性の平均寿命は 62 歳、女性は 64 歳であるが、MENA の中で女性の平均寿命が 70 歳を下回っているのはイエメンだけである。

(完)

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行

〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601

Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642

E-mail; maeda1@jcom.home.ne.jp

MENA(中東・北アフリカ)22カ国 なんでもランキング:人口・平均寿命2014

国名	人口(百万人)			年平均 増加率 (%)	平均余命 (2010-2015年平 均)		合計特殊 出生率 (人、 2010-2015 年平均)
	総数	10-24歳 (%)	10-24歳人 口		男	女	
エジプト	83.4	28%	22.9	1.6%	69	73	2.8
イラン	78.5	24%	18.7	1.3%	72	76	1.9
トルコ	75.8	25%	19.2	1.2%	72	79	2.1
アルジェリア	39.9	25%	9.9	1.8%	69	73	2.8
イラク	34.8	32%	11.1	2.9%	66	73	4.1
モロッコ	33.5	27%	9.0	1.4%	69	73	2.8
サウジアラビア	29.4	24%	7.2	1.8%	74	77	2.7
イエメン	25.0	35%	8.9	2.3%	62	64	4.2
シリア	22.0	31%	6.8	0.7%	72	78	3.0
チュニジア	11.1	23%	2.6	1.1%	74	78	2.0
UAE	9.4	17%	1.6	2.5%	76	78	1.8
イスラエル	7.8	23%	1.8	1.3%	80	83	2.9
ヨルダン	7.5	28%	2.1	3.5%	72	76	3.3
リビア	6.3	26%	1.6	0.9%	73	77	2.4
レバノン	5.0	27%	1.3	3.0%	78	82	1.5
パレスチナ自治政府	4.4	35%	1.5	2.5%	71	75	4.1
オマーン	3.9	28%	1.1	7.9%	75	79	2.9
クウェイト	3.5	22%	0.8	3.6%	73	75	2.6
カタール	2.3	18%	0.4	5.9%	78	79	2.1
バハレーン	1.3	21%	0.3	1.7%	76	77	2.1
(MENA 合計/平均)	484.8	26%	128.8	2.4%	73	76	2.7
世界全体	7,244.0	25%	1,797.0	1.1%	68	72	2.5
アラブ諸国	327.0	29%	95.0	2.0%	67	71	3.3
日本	127.0	14%	17.9	-0.1%	80	87	1.4
米国	322.6	20%	65.4	0.8%	76	81	2.0
中国	1,393.8	20%	278.6	0.6%	74	77	1.7
インド	1,267.4	28%	355.3	1.2%	65	68	2.5
ロシア	142.5	16%	23.3	-0.2%	62	74	1.5

Source: State of World Population 2014, UNFPA

http://www.unfpa.org/sites/default/files/pub-pdf/EN-SWOP14-Report_FINAL-web.pdf